



京都盆地の南端に淀川に注ぐ三河川・巨椋池が作る広大な湿地を秀吉が大土木工事を実施し、政治・経済 の中心に変身させた地で、秀吉以降 伏見桃山時代から昭和 そして現在まで 大いに栄えた街である

- 豊臣秀吉が開いた城下町・港町^所伏見桃山時代の政治・経済の中心地 〇 京都盆地の南端 淀川に注ぐ桂川・宇治川・木津川の合流点 交通の要衝 〇淀川治水の要 秀吉の大規<mark>模河川改修工事で作られた街「伏見」と太閤堤</mark>

- 城がなくなった江戸期以降も大阪と京都を結ぶ水運で隆盛した港

 ② 江戸期 角倉了以が開削した新高瀬川、三十石船と十石船
- 旧巨椋池

Image © 2012 DigitalGlobe © 2012 Cnes/Spot Image

京都の南端 「伏見」の顔

京都盆地の南端に淀川に注ぐ三河川・巨椋池が作る広大な湿地を秀吉が大土木工事を実施し、政治・経済の中心に変身させた地で、秀吉以降 伏見桃山時代から昭和 そして現在まで 大いに栄えた街である

- 豊臣秀吉が開いた城下町・港町 伏見桃山時代の政治・経済の中心地
 - 〇 京都盆地の南端 淀川に注ぐ桂川・宇治川・木津川の合流点 交通の要衝 〇淀川治水の要 秀吉の大規模河川改修工事で作られた街「伏見」と太閤堤
- 城がなくなった江戸期以降も大阪と京都を結ぶ水運で降盛した港
 - 江戸期 角倉了以が開削した新高瀬川 三十石船と十石船
 - 昭和期 琵琶湖疏水(鴨川運河)を開削 大阪-京都-琵琶湖の水運
- 名水の地「伏見の酒」 月桂冠・黄桜・月の桂・神聖・玉乃光・富翁 ・・・・・・・・・ 難の「男酒」に対して『女酒」ともいわれる決めの細かいまろやかな口当たり
- 宇治川の対岸に広がる広大な「巨椋池」の干拓
- 幕末 坂本竜馬 寺田屋事件の地 慶応2年(1866年)に発生した伏見奉行による坂本龍馬襲撃事件。

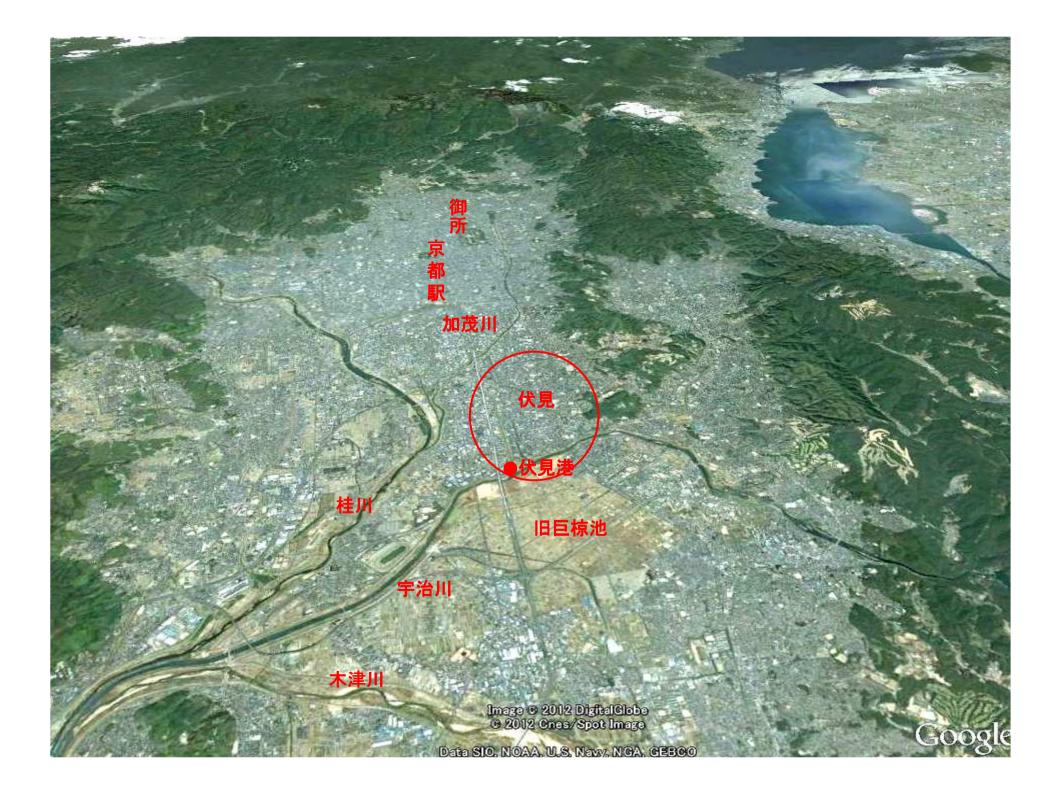
治末期には京阪電車が開通し、ますます栄えるようになったという。

● 伏見 中書島 伏見港のあった地

現在の京阪中書島駅を中心とした地域であり、南北に竹田街道が通っている。 四方を川(南は宇治川、三方は濠川)に囲まれており、かつて島であった名残をとどめている。

文禄年間、中務少輔の職にあった脇坂安治が宇治川の分流に囲まれた島に屋敷を建て住んだことから「中書島」の名前が生まれたとされる。豊臣秀吉によって開発され武家屋敷が立ち並ぶようになったが江戸時代前期に荒廃したが、その後、伏見城下にあった遊廓が移転され、繁栄するようになる。 酒の名所であるために遊びに来る人が多く、また、宇治川に近く、交通の便が良い中書島は遊廓であると同時に花街でもあり、祇園をしのぐほどの名妓を輩出してきた。明

ところで、こんな過去を持つ場所であり、年配の関西人には なじみの名前であるが、 現在は普通の住宅地であり、花街、遊廓時代の面影はほとんどない。 また、「中書島」の地名は残っておらず、京阪電車の駅類として残るのみ。 これも 時代の流れか・・・・





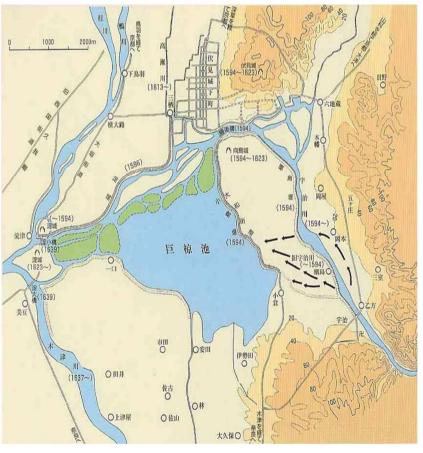
伏見港は秀吉によって作られた人工の城下町・港町

豊臣秀吉による巨椋池周辺の大改修と伏見港の建設

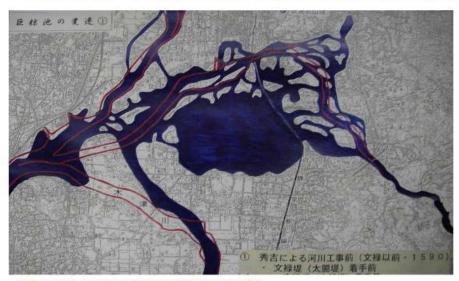
秀吉の時代の巨椋池沿岸図

当時の巨椋池には、宇治川・桂川・木津川が流れ込んでいたため、大雨が降ると巨椋池の周辺は洪水に見舞われていました。そこで、秀吉は巨椋池周辺に堤を築き宇治川の流れを変え、巨椋池の洪水を抑えるとともに、宇治川の流れを利用する伏見港を造りました。

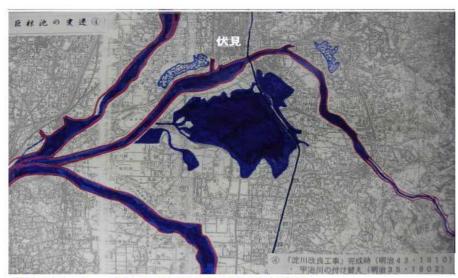




淀川改修・巨椋池干拓と三川合流点周辺の地形変化



秀吉による河川工事前平安時代のままの姿 文禄堤(太閤堤)着手前 文禄以前(1590)



明治の改良後 明治18 (1885) 木津川の付け替え 明治35 (1902) 宇治川の付け替え



秀吉による河川工事後 文禄5年(1596)

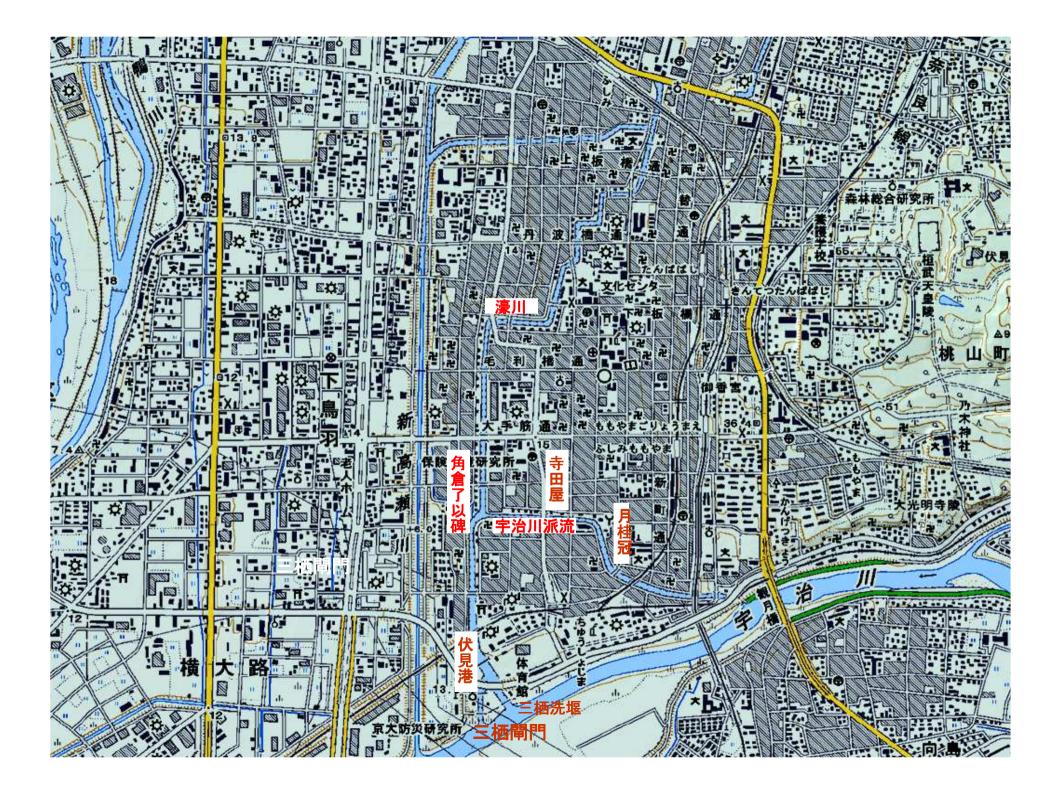
- ・文禄堤の築造、左岸連続堤の概成 ・文禄堤により宇治川と巨椋池の分離
- ・秀吉の建設した城下町伏見に港が設けられ、交通の要衝になった



昭和の改修・巨椋池干拓後(現在) 巨椋池干拓 大正7年(1918)~昭和16年(1941) 三川合流点の道流堤、引堤等 昭和8年(1933) 今の堤が完成 昭和43年(1968)









伏兇潜船溜まりを埋めて整備

伏见港公園

の岸に出る。諸施設の丘を抜けると伏見港濠川体育館・ブールやテニスコートなどの



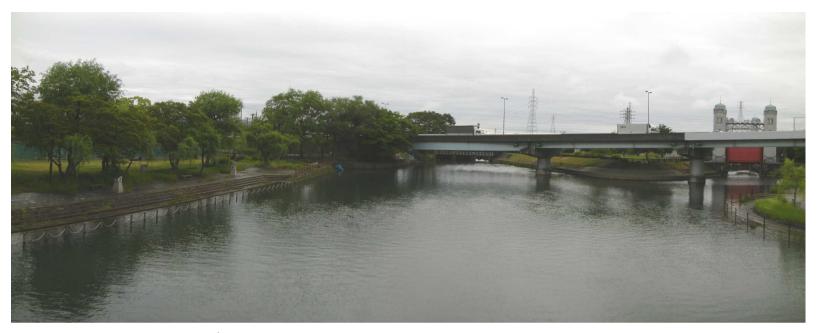






宇治川派流・伏見港は豊臣秀吉の伏見城築城流路改修によって形成され、 各時代にわたって京都・大阪を結ぶ交通の要衝として栄えた河川港である。 幕末には、寺田屋騒動や坂本竜馬の活躍などわが国の歴史の主要な舞台ともなった。 また、角倉了以の高瀬川開削、近代の琵琶湖疏水開削、淀川改修などと深くかかわる など、わが国の政治経済・土木技術史上極めて高い歴史意義をもった地域である。

中書島 伏見港公園の案内板より



南側 濠川の宇治川出口方面 左: 三栖洗堰 右: 三栖閘門





湯川東岸より水路の上流 伏見の町・京都側 大見 港 木橋の向こうに京阪の鉄橋が見える













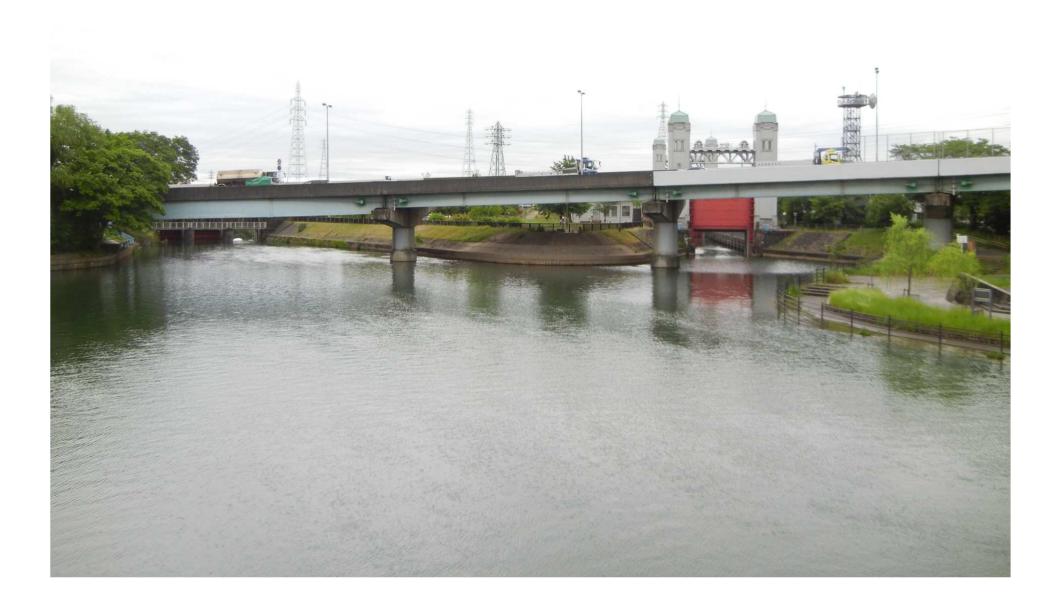


木橋を渡って 対岸を宇治川への出口 三栖閘門へ 2012.5.15.

















三栖閘門は伏見港と宇治川を結ぶ施設として昭和4年(1929)に造られました。2つのゲートで開室内の水位を調節し、水位の違う濠川と宇治川を連続させて、船を通す施設です。

は、たくさんの船が閘門を通って伏見と大阪の 間を行き来していました。

現在、道路や鉄道の発達にともない、交通路としては 利用されていませんが、地域との関わりが深く、歴史的 にも大変貴重な施設です。 ※漆川(ごうかわ)は、ほうかわ」とも手ばれています。

> 三栖閘門 伏見港側 2012. 5. 15.

伏見港 宇治川出口に設けられた三栖閘門

1929(昭和4)年に宇治川の改修を行った際に、宇治川の堤防が整備され、宇治川の水位が下がり、宇治川と濠川に水位差が生じたために、宇治川との舟運連絡を図るために伏見港と宇治川を結ぶ施設として設けられた土木構造物。

2つのゲートで閘室内の水位を調節し、水位の違う濠川と宇治川を連続させて、船を通す施設です。

昔は、たくさんの船が閘門を通って、伏見と大阪の間を行き来していた。

現在、道路や鉄道の発達で、交通路としては利用されていないが、地域との関わりが深く、歴史的にも大変 貴重な施設で地域のランドマークとなっている。



三栖閘門と三栖閘門資料館



に対わしまき どぼくいさん み す こうもん 昭和初期の土木遺産 三栖 開門



三栖閘門資料館 (1889)00~1630



昔の操作家を技えした資料館です。 三個開門の投制や選可として登建してきた 伏見の歴史などを紹介しています。

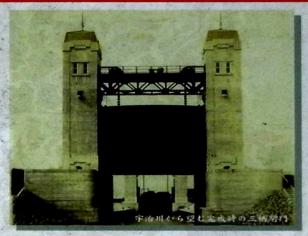
船着場



船が航行していた当時の展景を再現し、 船看場として利用しています。

現在休止中

しばらくの間お待ち下さい。

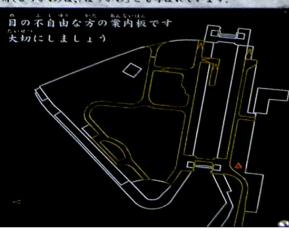


三栖 開門は伏見港と宇治川を結ぶ施設として昭和4年(1929)に造られました。2つのゲートで開室内の水位を調節し、水位の違う濠川と宇治川を連続させて、船を通す施設です。

間を行き来していました。

現在、道路や鉄道の発達にともない、交通路としては 利用されていませんが、地域との関わりが深く、歴史的 にも大変貴重な施設です。

※漆川(ごうかわ)は、「ほうかわ」とも手ばれています。



三栖閘門

産業技術遺産探訪 2004.8.7.より

http://www.gijvutu.com/ooki/tanken/tanken2004/misu-koumon/misu-koumon.htm







前扉室(伏見港水路側)





三栖閘門・後扉室(宇治川側)

三栖閘門バイパスゲート(前扉)



三栖閘門・前扉室



閘門ゲート



八幡製鉄所の表示

鋼製スライドゲート 門数 型式

扉体幅 揚程 1. 200m

設置年月 昭和62年3月 製作

2門

1. 640m **扉体高** 1. 480m 扉体重量 0.687t

近畿設備株式会社

◎ 三栖閘門・後扉室側の旧巻上機













伏見港から宇治川への出口 三栖閘門 現在は宇治川の水位が下がり使われていない











三栖閘門の南側 字治川の向こうには 旧 巨椋池が埋め立てられて出来た広々とした田園地帯が広がっていました 2012.5.15.

三栖閘門の南側

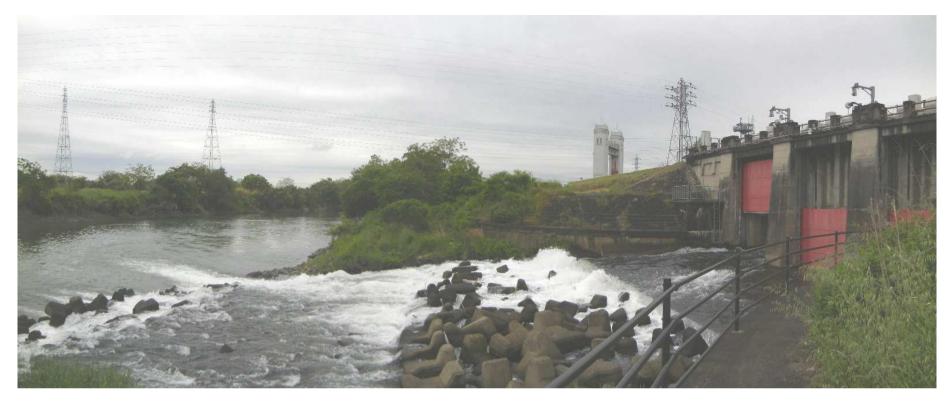
宇治川の向こうには 旧巨椋池が埋め立てられて出来た広々とした田園地帯また、京都へ伸びる宇治川基撰山発電所からの送電線が川をわたってゆく 2012.5.15.













三栖洗堰 2012.5.15.

三栖閘門と対をなす三栖洗堰

濠川の水量調節に今も働いている。

現在の宇治川と洗堰の位置関係 落差の大きさにびっくり。

これは、上流側に設けられた関西の大水甕で天瀬ダムの完成で水位・水量が大幅に落ちたためと見える。

この宇治川の水量低下で 三栖閘門の機能は失われ、

現在 宇治川から伏見の港・水路に直接船で入ることは出来ない。









三栖閘門と三栖洗堰の間の三角島に立つ三栖資料館

伏見港・閘門の歴史資料を展示

2012.5.15.

大坂から船によって運ばれてきた物資は、伏見港で荷揚げされたのち、 陸路を利用して京都へとどけられていました。

これを一変させたのが、1614年(慶長19)の高瀬川開削でした。

この運河の完成により、伏見港に集積された物資は船を使って京都の町へと運ばれるようになりました。 高瀬舟の登場によって、伏見港は大坂と京都の町を結ぶ中継地となり、よりいっそう発展しました。

1 運河として誕生した高瀬川

延州として配生いた商棚川 3年の月日をかけて完成した。 伏見港と京都市内を結ぶ水上輸送路。 高期旧京都の高高・均省了以と思子の素単に より開きされました。工事は1811年(優長16) から約3年をかけ、二条から伏見恵までを結ぶ 幅約四、全長11.1kmの大道男となりました。 底の平らかす五石積みの高高角が行き来し、駅 の別への水上輸送手段として活躍しました。 高瀬川によって、大阪一伏見一京都が舟道で結 ばれ、中間点となった伏見予核、さらに繁末と原 またり作型は両地大が発売されます。 す。また伏見港は西国大名が参数交代する時の 海在地となり、中心である京橋付近には本障が 置かれ、宿場町としても履わいました。





2 高瀬舟で運ばれた物資 材木、請談、米、塩などを調んで、 川上をめざす高濃舟の一団。 足川舟道で大坂から運ばれてきた物資は、伏見 港でいったん藤ろされ、10数隻の高濃舟に積



文書・森鴎外が 1916年(大正5)に発表した 小説「高瀬舟」

高瀬舟を舞台とする、弟を殺した罪人と 護送する役人の物調です。高瀬舟は物 資だけでなく、このように罪人をいった ん京都から大阪へ運ぶ時にも使われて

「晴れやかな装備を浮かべている罪人 に対して、役人がその理由をたずねると、 罪人はやがてなぜ弟を殺害したのかを

語りはじめます…。」 「安薬死」を題材にしたこの小説は、軍 医でもあった森陽外だからこそ描けた小



伏見の本格的な発展は、豊臣秀吉の伏見城築城に始まります。

天下統一後、1583年(天正11)に大坂城を、1586年(天正14)には京都に聚楽第を造った秀吉は 1591年(天正19)に関白臓を類の秀次に関ると、伏見に域を築きます。 伏見を選んだのは、大坂と京都、奈良に目がとどく地だったからです。

ここでは秀吉が伏見に建てた城と城下町のようすを紹介します。

1 淀 城

町

1589年 (天正17) に大修築され、 側室・茶々の産所となった城です。

淀滅は、もともと室町時代の編川設元が、淀と径川、木津川の合流地点に築いた城でした。 と種川、木澤川の台流地点に保いた概でした。 美苦は、この城を側室・茶々の産所とするため に大修築します。やがて、この城で積松を出産した茶をは「定陵」と呼ばれるようになります。



2 指月城

"不死身"を願って建てた 隠居屋敷を、本格的な城に改築。

1592年(文禄元)、秀吉は伏見にある指月の 丘に茶会などを催す間居屋敷を建築します。 息子の錆松や母の大政所、弟の秀長と身内の死

地を選んだといわれています。 1594年(文禄3)には定城の 天守などを移設して屋敷を城 大寸なことも成じて屋敷を城 に改築し、指月城とします。こ れは来日する朝鮮使節に権威 を誇示するためと想像されます。

3 向島城

1月 頃の一般として適られた 月見用の域でした。 規則減減が高調の下層数で質した額月金で、美 音はこの地から鏡める月の美しさに蒸棄し、 指月域とは別に私的な場として向島線を建てま した。現在では減量を思わせるものは残ってい





4 伏見城

蔵具的な速さで完成した大規模な城郭、 そして秀吉の夢の終わり……。

考古は、1596年(陳長元)に指月城が大地震 売店は、1596年(康長元)に指月城が大地震 で開発すると、その10日後に指月城から1km ほど東北にある木棚山に新しい域を建てはじめ ます。翌年にはすでに本丸が建工し、さらにそ の翌年には天守や蔵舎も完成して男吉と子ど もの男飾が入城しました。その機関は仕犬で、 多くの内閣を巡らした東西760m、南北870m におよび大城がでした。また城内には再入事故 や本本、第二の平間所が到けられました。



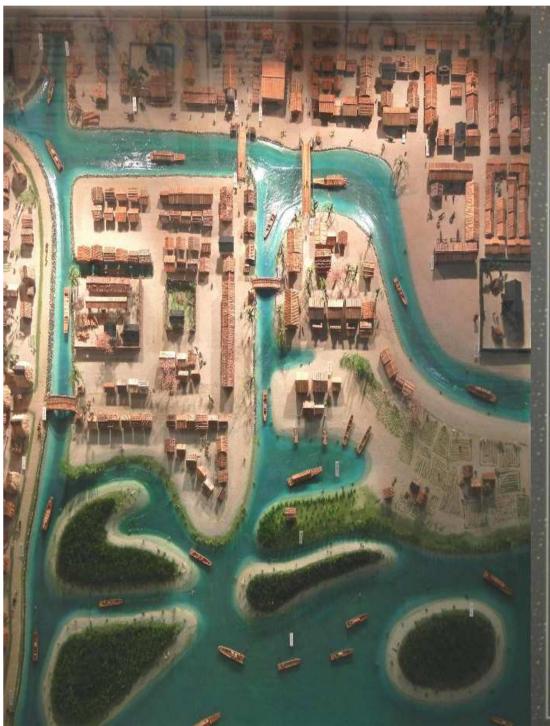


5 城下町 伏見 の創生

1594年 (文禄3) 頃に始まったまちづくり、 現在のまちの原型が見られます。

域の西には商人町や職人町が設けられ、にきわ いをみせたそうです。同業者による町も限けられ 材末町、角屋町、塩原町、柏天工町、組庫町など



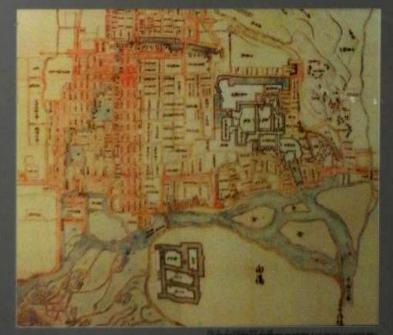


伏見港と伏見の町

1600年(康長5)の関ケ豚の戦いにより、天下を撃撃した徳川家康は、 秀吉のまちづくりを引き継ぎ、伏見は江戸時代になっても依然として日 本機大の城下町であり、政治都市でもありました。

問雇や宿屋が残ち並び、活造や竹細工など伏見独自の産業も生まれてきました。人口は増加し、伏見は庶民のまちとして大いに発展していきます。 伏見と大坂間を退電船 (三十石船) が行き来するようになると、伏見着は 物質だけでなく多くの旅人で帰わうようになりました。

1635年(資永12)に参助交代が制定されると、西国の大名は大坂から船で伏見港に上陸し、東海道を江戸へ向かうようになりました。このため伏見には多くの大名屋敷・倉庫・旅籠がならび、伏見港は"京都と大坂を結ぶ"から"西国と東国を結ぶ"重要な拠点へと発展しました。この模型は、江戸中間の古地図を基に制作しましたが、南並みは少し商組してあります。



化多数复数共享数据之地位(代表进出规范制)

養吉の時代から始まる長い歴史のなかで、 伏息港にはさまざまな雑類の船が現れ、消えていきました。 そのいずれもが、時代に対応した自的と役割を持ち、伏見港の発展を支えました。 ここでは、船の種類ごとに、その歴史や役割について紹介します。

高瀬舟

「国内が70 「国内」は当時を目除し、水河の浅い当時や推 なとで使われた平底の小舟であり、高海市と呼 はてました。高瀬市は、日本各地で見られ、京都 では内容「足が1614年(順長19)に切削した 連列を行き来し、代見と原の町の個大人や物質 を添んでいました。このことから瀬河は「南渕山」 と呼ばれるようになります。副倉浦には数百隻 が福瀬川を続行していたそうです。



伏見船

通解部に対抗して1698年(元禄11)に伏見奉行が支配した船で、通解船間標、特権的な営業権を所有していました。大坂の英層機変化は京機変でを繋行る場合し、市中まで入ることはできませんでした。江戸時代の学校年間を連踏用とし、漫川を約200度が行き交っていました。







過書船

遊断とは関所を遊航できる許可書のことで、週 育を与えられた船を潜電船と呼びました。 芳吉の頃から登場した船ですが、1603年(版 我8)に装置によって制度化され、銀500枚の



淀 船

室町時代以前からあった二十石積みの船で、足二十石根とも呼ばれました。 二十石根とも呼ばれました。 また足川海水師には大型船の上海を転離した ので定上前船とも、さらに1603年(歴長8)以 後は通道庫の支配下になったため、通嶋二十石 船とも呼ばれました。



第上全で提票 (朱印状) が与えられ、過剰度(選 最初行(色色ミニ・上記号と表現)のよう 面かれました。当初は代見・大坂・尼崎を開行と ほとしましたが、の時代代見一大阪・(天海等) 間 に改められました。荷船は主に20~200石船。 客船は二十石船で、いまれも江戸時代の享録初 期には数百菱を数えました。



蒸気船

1870年(明治3)から伏見〜大阪間を運動したもので、大阪の脇島吉郎兵衛がよじめて以前させたといわれています。当時は「川西先」と呼ばれていまた。以来、「71の外輪式小型第五版に対きり、大正断には100巻を放える船舶が往来し、魅わいました。

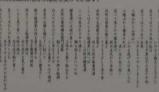


Column

今も歌い継がれる淀川三十石船の船頭衆の船頭歌 三十石舟頃

伏見から大坂へ向かう三十石船から眺める両岸の風景を七・七・七・ 五調の音数で明い上げています。

明治中期にはいったん途絶えましたが、丹頃を歌い継いでいた市川 九平次氏を中心に「定川三十石船舟順大塚保存会」が結成され、今 も用頃の保存と普及に努めています。2002年(平成14)には天阪 府無形民族文化財の指定を受けています。



最

EI: 1 城下町 伏見 の発展 ZI.L 江戸時代になっても、秀吉が築いた 中でと関係が伏見を繁栄へと導きます。 秀吉・秀徽のもと、日本第一の城下町に発展し た伏見は、江戸時代になってもその活力が衰え

ることはありませんでした。 宇治川・遠川の整備と高瀬川の開制による水上 - 宇の拡大っ伏見街道・竹田街道・新大和街道・ 議院の拡大や代見品道・竹田助道・新大和助道・ 大津街道などの後上交通の整備により、人と物 が集まる時代として今に達成を機めていきます。 問題や信服が建ち並び、希道学や大工画具、 竹幅工工業など代見発自の産業も生まれてき ました、人口は増加し、代見は成民のまちとして おおいに発展していきます。

いかに活力にあふれていたかを紹介します。

2 政治都市・伏見

日本初の銀座が開設され、 伏見は江戸時代も政治の中心にある まちでした。

まちてした。
1600年(服長5)年の関ヶ原の風いに勝利した他(原集は、秀吉がこがけた伏見のまちづく りを引き継ぎます。1601年(服長6)にはわか 間ではしめて向等を削減する根屋を状態に関く など、銃然として伏見に関っの設治節ででした。 1603年(服長8)に江戸に馬府が開かれますが、素類やさ代将軍・秀忠は江戸馬府の基礎を固め るため、伏見を拠点に政治的手段を発揮していました。



1600年(慶長5)の関ヶ原の戦いにより、伏見の象徴である伏見城はほとんど消失してしまいます。

家職は秀吉のまちづくりも引き継ぎ、伏見は依然として日本最大の城下町であり、政治都市でもありました。

しかし、天下を掌握した徳川家康は伏見城を修築・増築し、再現します。

ここでは、江戸時代の伏見のまちが、政治都市として、産業都市として、

3 産業都市・伏見と伏見港 多くの過剰船が発着し、西国と東国を 結ぶ一大流通拠点に成長。

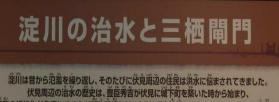
は一人がはないがしています。 江戸時代、伏見と大坂の間を漫画船(三十石船) が行き来するようになり、伏見港は物資だけでなく多くの旅人で賑わうようになりました。 1635年(寛永12)に参野交代が制定されると、 西園の大名は大坂から船で伏見港に上陸し、

ようになりました。
このため代見には多くの大名原数、倉庫・依備
がならび、京都と大坂を結ぶ、かち、百国と東
国を掲ぶ、重要な観点へと発展しました。
産業・経済における伏見のきちの活力は、単行
小伏息を京都集行の管題からはすし、独自に伏 か広見を京都学行の電器からはずし 見奉行を置くほど強大なものでした。

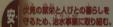








土木行政の近代化が急速にすすんだ明治時代には、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケらの指導による 大規模な治水工事が次つぎに実施されました。



大児の繁栄と人びとの暮らしを であため、治水事業に取り組む。 用意の第40もと、参加に直接が発達でれ、参加に 用地に大き程。日本の上に大幅・大地道はその4巻 は着かれなくなど、日本の上に大幅・大地道はその4巻 は着かれました。代の後の今年間に所名いた明に直接 いの簡単も即の方によたが、その後も宇宙川の直接を えることはてきませんでした。









淀川の主な洪水の湯の湯

7月、佐風泉市による途川大井水(1年 治大井水)といわれ、遠川改良工事を行 うきっかけとなった) 週刊年中の方子を授、伊加賞者のほ か222番所次課

959年(前期34) 8月に台風7号、9月に台風15号(伊勢



伏見付近における主な河川改修工事(明治中RICE)

1918年(大正7) 淀川改修增補工事

●三川合流地点に木津川・宇治川の背 駅振を乗り、終川お送の引援などを

77。 ●銀月橋から三崎に至る后岸埋を造り、 伏見着を増加し引き入れる。 ●三根に開門と治療を建設する。 ●東高倉川を開射する。



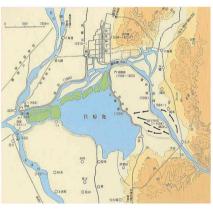


豊臣秀吉による巨椋池周辺の大改修と伏見港の建設

秀吉の時代の巨椋池沿岸図

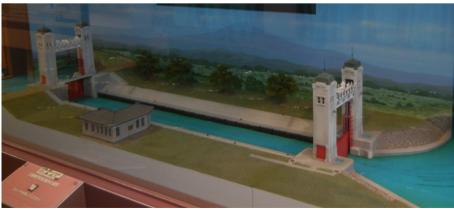
当時の巨椋池には、宇治川・桂川・木津川が流れ込んでいたため、大雨が降ると巨椋池の周辺は洪水に見無れ れていました。そこで、秀吉は巨椋池周辺に堤を築き宇治川の流れを変え、巨椋池の洪水を抑えるとともに、 宇治川の流れを利用する伏見港を造りました。









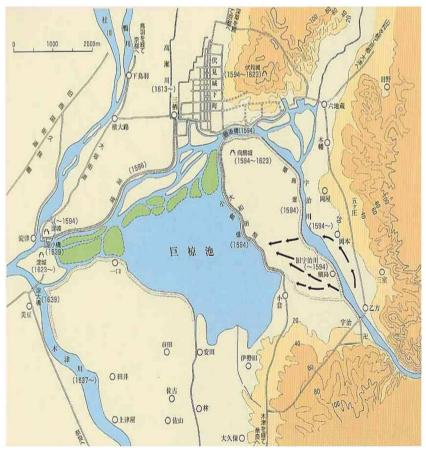


豊臣秀吉による巨椋池周辺の大改修と伏見港の建設

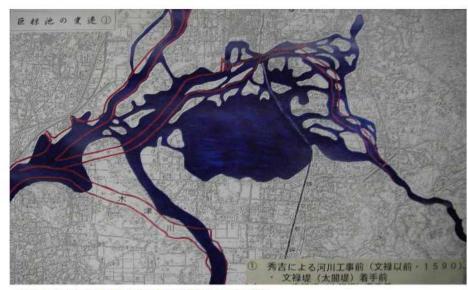
秀吉の時代の巨椋池沿岸図

当時の巨椋池には、宇治川・桂川・木津川が流れ込んでいたため、大雨が降ると巨椋池の周辺は洪水に見舞われていました。そこで、秀吉は巨椋池周辺に堤を築き宇治川の流れを変え、巨椋池の洪水を抑えるとともに、宇治川の流れを利用する伏見港を造りました。

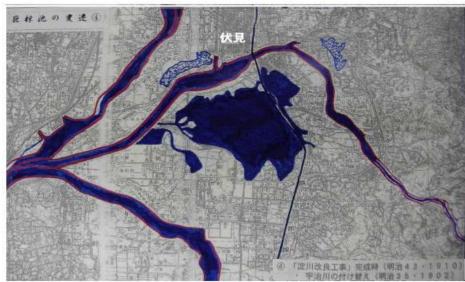




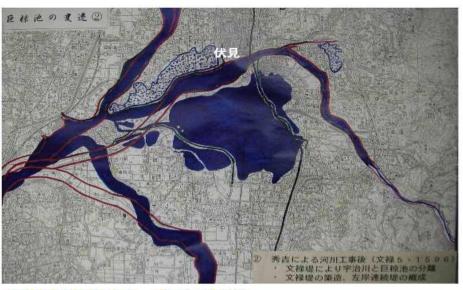
淀川改修・巨椋池干拓と三川合流点周辺の地形変化



秀吉による河川工事前平安時代のままの姿 文禄堤(太閤堤)着手前 文禄以前(1590)

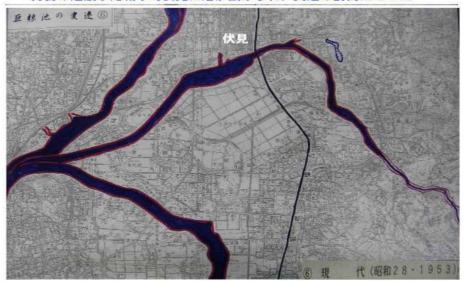


明治の改良後 明治18 (1885) 木津川の付け替え 明治35 (1902) 宇治川の付け替え

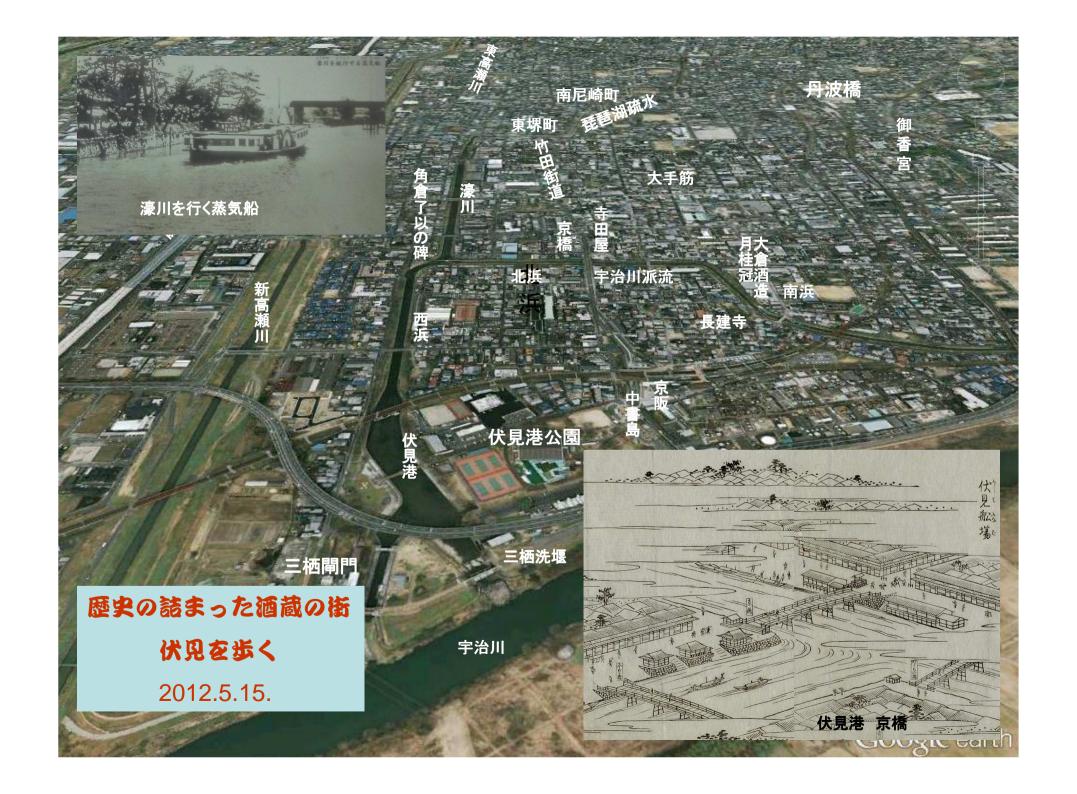


秀吉による河川工事後 文禄5年(1596)

- ・ 文禄堤の築造、左岸連続堤の概成 ・ 文禄堤により字治川と巨椋池の分離
- 秀吉の建設した城下町伏見に港が設けられ、交通の要衝になった



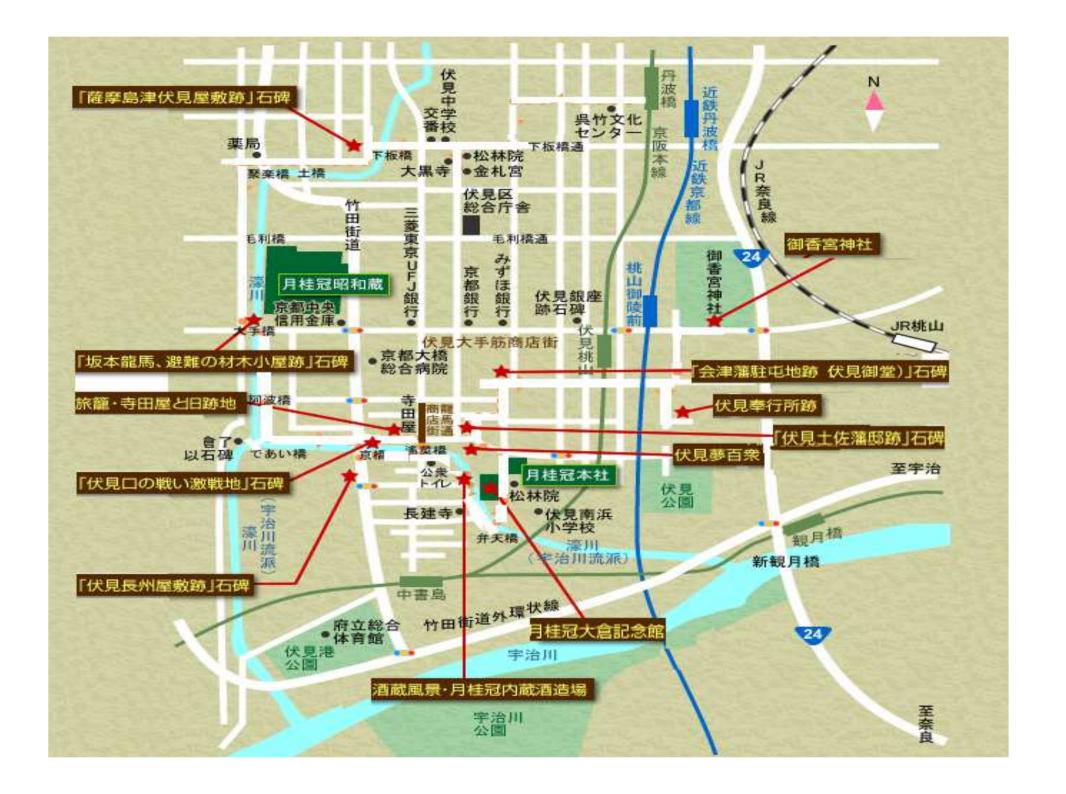
昭和の改修・巨椋池干拓後 (現在) 巨椋池干拓 大正7年 (1918) ~昭和16年 (1941) 三川合流点の道流堤、引堤等 昭和8年 (1933) 今の堤が完成 昭和43年 (1968)

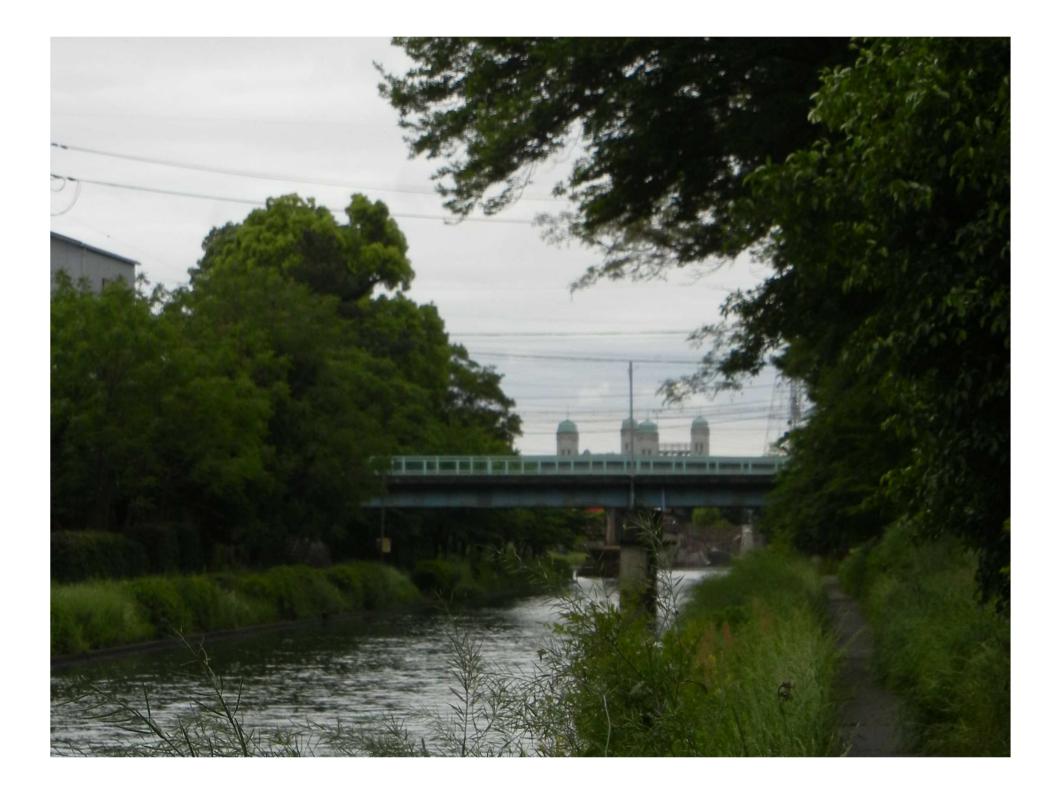








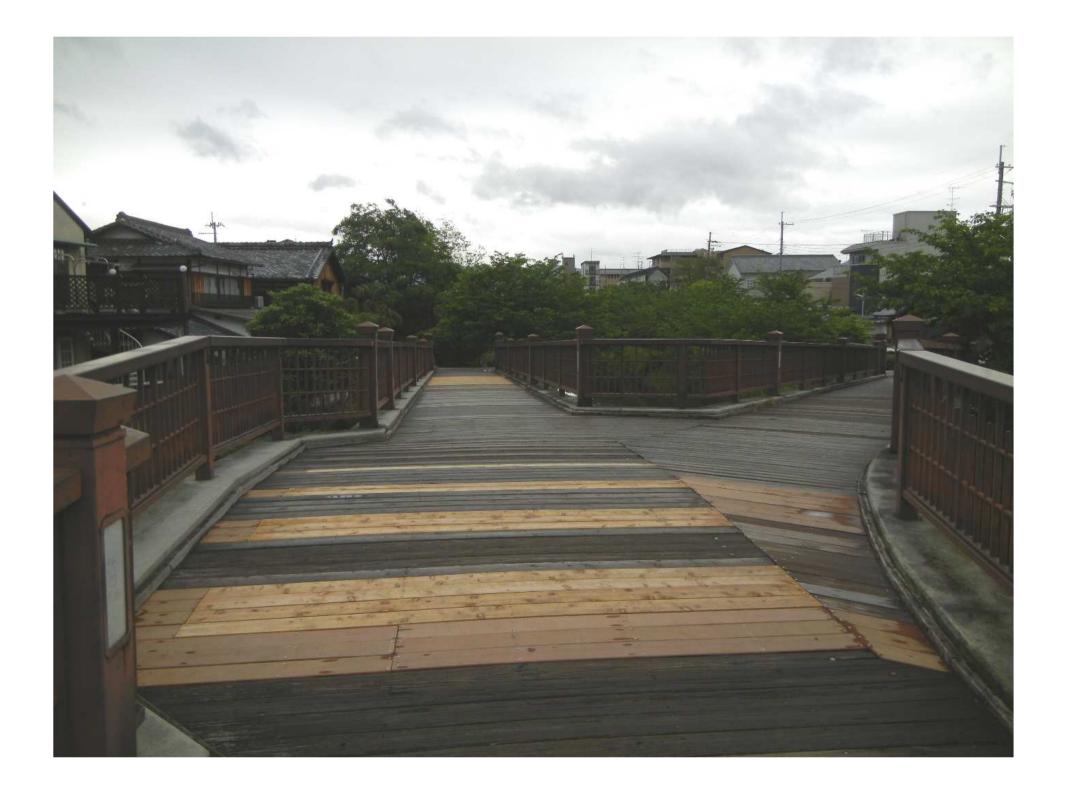




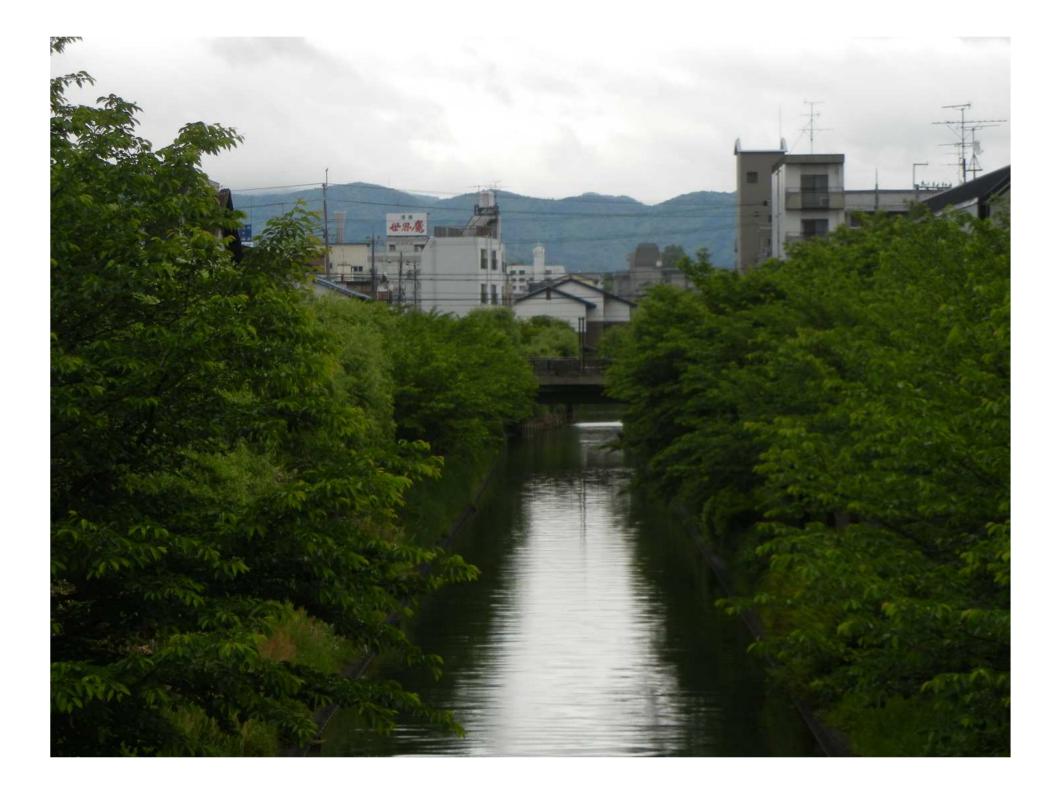


宇治川派流との分岐点 角倉了以の碑があるであい橋 2012.5.15.











































月桂冠 大倉記念館 2012.5.15.































丹波橋近く 下板橋通りを東から西へ疎水を渡ると酒造工場の前に 薩摩島津藩伏屋敷跡 寺田屋から脱出した坂本竜馬が逃げ込んだところ



伏見の濠川北部・疎水の町並みの中に 秀吉の時代 商人町として栄えた「尼崎」「堺」の名を見つける

秀吉伏見築城の折り、堺や尼崎の職人たちが伏見城下に移され、 彼らの住む町が、今も尼崎町堺町の地名が伏見に残っている。

堺とともに尼崎は中世の末から豊臣時代にかけて、 港町・寺内町として栄えた日本有数の自治都市だった

瀬戸内海を通して西国から都へ輸送されるさまざまな物資が往来し、なかでも京や奈良の巨大社寺を造営する材木を西国から運ぶ中継港として、大物や尼崎の港は大いに栄えるとともに、大覚寺や本興寺を中心にそれぞれ寺内(境内)や門前に町屋を展開し、独立した町と寺社門前の集合体として堺とともに 中世日本有数の自治都市となった。

この頃の尼崎は港町として、船頭・水主や、陸上の物資を運ぶ馬借などがいただろう。また、米、塩、油、材木などが海上ルートから入ってきたと考えられ、これらを保管する土倉(倉庫業者しばしば高利貸業も)その他の商人や手工業者 そして僧侶や武士も居住し、また漁民や農民も少なくなかったと推定される。 こうした都市住民が結集して、都市共同体を形成していたと考えられている。



明智光秀を追討する秀吉は、尼崎で軍勢から離れ一人になってしまう。 明智勢から身を隠すため駆け込んだのが当時大物にあった廣徳寺。 髪の毛を剃り落とし僧に化け、台所で味噌をするという迫真の演技で 敵をやりすごしたという。

『絵本太閤記』に記された逸話だが、史実として明らかではない。

絵本太功記・十段目尼崎の段は脚色があると思っていましたが、 この話は小さい時から史実と思っていました。

どうも そうでないらしい。



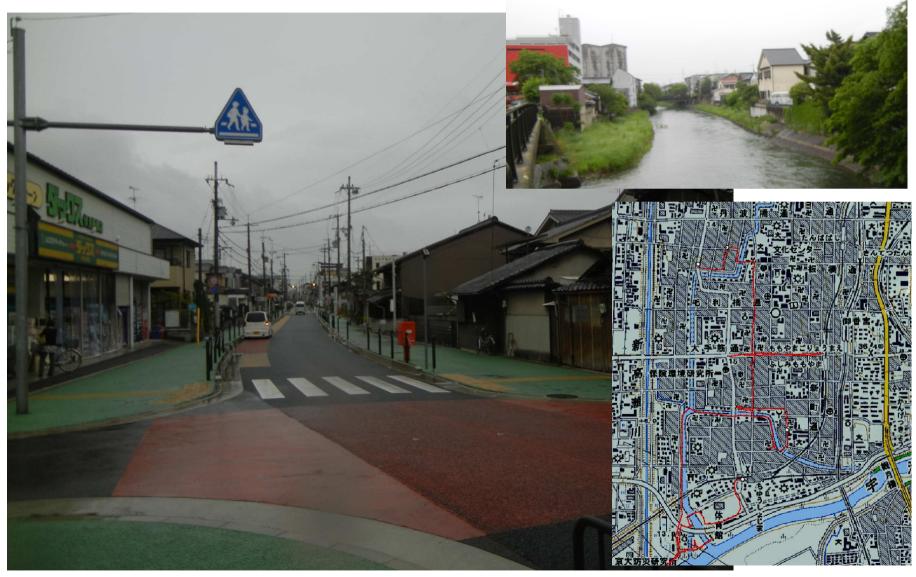
612-8076

伏見区

崎町

寺町の廣徳寺にある石碑

濠川が直角に東へ曲がり、疎水(東高瀬川)となる角にある竹田街道 聚楽橋の北岸へ出ると街歩きもおわり



聚楽橋を渡ったところ まっすぐ北へ竹田街道が続く 2012.5.15.

